

月刊 ゆがの通信

2021年3月号

発行：ゆがの薬局

加齢による血管の老化や生活習慣病から 引き起こされる脳梗塞に「丹参(たんじん)」

「脳梗塞」は前兆を見逃さない

脳梗塞は脳の血管が詰まることで起こる病気で、日本では年間20万人が発症して六万人が亡くなっています。

脳梗塞の原因は加齢による血管の老化や生活習慣病から引き起こされる動脈硬化などです。社会の高齢化に伴い、一人に一人は生涯のうちに一度は脳梗塞が起こると言われ、約半数の方に後遺症が残っています。脳梗塞の後遺症で特に問題となるのは「寝たきり」です。脳へのダメージを極力抑えて後遺症を防ぐには脳梗塞のサインをいち早くキャッチして、できるだけ早く予防や治療を開始することが重要です。



異変に早く気づくために知っておきたいことが脳梗塞の主な症状に関する五つのサインです。

- B「Balance」(バランス) 身体がふらついていないか
- E「Eye」(アイ) 目の見え方に異常はないか

○F「Face」(フェイス) 顔の麻痺はないか

○A「Arm」(アーム) 腕の麻痺はないか

○S「Speech」(スピーチ) 言葉の麻痺はないか

この五つのサインを覚えておいてください。

脳梗塞のサインが一度起こってから、数分から数十分で自然に消えることがあります。これは脳の血管に詰まった血栓が短時間で溶けて血流が元に戻る現象で「TIA(一過性脳虚血発作)」と呼ばれています。

TIAをそのままにすることはかなり危険です。TIAのあとに脳梗塞が起こった人の半数は四十八時間以内に脳梗塞を起こすことが多いからです。すぐに症状が消えても安心しないでください。

「瘀血(おけつ)」と「丹参」

そもそも脳梗塞とは脳の動脈の血管内に血の固まり「血栓」ができ、それが血管をふさいで、その先に酸素や栄養物が運ばれなくなってしまう「血栓症」の病気のことで、この「血栓」つまり「血流の滞り」のことを漢方では「瘀血(おけつ)」と呼んでいます。この「瘀血」をサラサラにして流れをスムーズにするこ

とを「活血化瘀(かっけつつかお)」と言います。「活血」とは文字通り「生き活きとした血にする」ということで「瘀」は滞り停滞すること、「化」はその状態を変化させる、取り除くことを言います。そこで数ある漢方薬の中で最も優れた活血化瘀薬として古代より用いられてきた生薬が「丹参(たんじん)」なのです。



タンジン (イスクラ産業ホームページから)

丹参はシソ科でサルビアの仲間、根茎の部分が薬として使われます。具体的には高血圧傾向の方の肩こり、動悸の原因となっている「瘀血」を「活血」したり、高血圧傾向の方の頭痛、頭重、めまいの原因となっている「瘀血」を「活血」します。

丹参を使用した漢方薬(丹参製剤)はいろいろな種類があります。商品の選択や飲み方のアドバイスなどは個人個人にあわせてご利用いただくことになります。

ぜひ一度当店でご相談ください。



「こころがワクワクするとからだも元気に」

やる気がおこらない、イライラしやすい、心配事ばかりで不安、うつ、眠れない方
ケアバランスでこころを安定させ健康な毎日を送りましょう

ゆがの薬局

賀茂郡河津町浜149-4 TEL0558-34-0150
当店ウェブサイト <http://www.yugano-ph.co.jp>

1ヶ月分 8200円(税込)